

問 防災意識の啓発は

答 防災ワークショップの推進を



小久保 照枝 議員 公明党

問 保育園、小中学校での防災訓練の取組は。

答 (教育部長) 保育所は月1回。小中学校は年3回実施。

問 垂直避難への取組は。

答 津波を想定した訓練では、校舎の3階や屋上へ避難する。

問 石巻市震災遺構へ子ども達の視察ができないか。

答 費用や時間の負担が大き。

問 防災ワークショップの目的と今後の取組は。

答 (防災課長) 今年度は「災害時の避難所運営方法」をテーマにして実施。今後も市民と顔の見える関係を作りながら実施。

問 個別避難計画の課題は。

答 (健康福祉部長) 行政や当事者だけでなく、関係機関や自主防災会等の連携が必要不可欠である。

問 タイムラインの課題は。

答 台風の接近時に一人ひとりが取る防災行動を時系列に整理したマイ・タイムラインについての視点も踏まえ、計画を充実させてゆく。



問 避難時情報伝達ツールの充実を

答 アンブルボード導入を検討

問 アンブルボード導入を検討出来ないか。

答 (防災課長) 市の避難所運営に有効であり今後検討していく。

問 市内にAEDはいくつ配備されているか。

答 (教育部長) 56台。

問 AEDボックスに三角巾とリフレットを配備しては。

答 (防災課長) 公共施設のAEDボックスへ、三角巾と使用方法を記載したリフレットの配備を検討する。



▲アンブルボード

問 防災会議に女性の参加やリーダーの育成が必要では。

答 防災会議の女性委員は3人増員し、現在4人。「海部地方防災リーダー養成講座」をPRして女性の参加を促進していく。

問 海南こどもの国で防災フェスタを開催しては。

答 (総務部長) 市制20周年記念事業の一つとして、県の「広域防災活動拠点の供用開始に合わせ合同で「防災フェスタ」が実施できないか検討して行く。



問 市長総括を。

答 (市長) 防災意識を向上するには、子どもの頃から防災教育を継続的に実施することが重要。関係機関等と連携しながら市役所全体で防災教育を推進していく。